

こんなことをしています！こんなところでごんぼっています！

地域おこし協力隊通信

橋を歩いて渡りました！

協力隊の山田周さんが企画する「もっと長島プロジェクト」の最終回が3月4日に行われ、町内小学生とその保護者20人が参加しました。

今回のテーマは「橋を渡るう！」で、伊唐大橋と乳之瀬橋、黒之瀬戸大橋を歩いて渡りました。

まずは伊唐大橋へ向かい、なかなか間近で見ることのない橋の主塔の大きさに参加者達は驚いていました。次に乳之瀬橋を歩き、名前の由来となる二つの丸い瀬を見学しました。最後の黒之瀬戸大橋では、参加者たちは強い風に負けず歩を進めていました。

参加者からは「歩いて渡ることのない橋を渡り、また違う景

色や風を感じられて楽しかった」と話していました。

山田さんは「当たり前のようにある橋を楽しんで渡ってくれてよかった。今回で最後になったが、これからも長島の当たり前のことに関心を持って、もっと長島を好きになってもらえれば」と話しました。



歩いて橋を渡る参加者

協力隊の活動が終了

令和元年8月から長島町の地域おこし協力隊として活動してきた

山田周さんが、3月末で任期が終了となり、協力隊としての活動を終えました。

山田さんは「コロナの影響で思うような活動ができなかったが、企画したいろいろなイベントに多くの子どもや保護者のかたが参加

協力隊の長谷川一総さんが、ジビエの革加工も手がける一般社団法人「やさしい革」（東京都）の工場を視察しました。

同法人で加工した革は、なめらかでしっとりとし触りの良い革製品として使用できます。長谷川さんが視察する際には長島町内で捕獲、下処理をしたイノシシを持参しました。



任期を終えた山田さん

してくれて、長島の魅力を再発見できたのではないかと思う。関わってくれた全てのかたがたに感謝している。これからは一人の町民として長島町の魅力を感じながら、次のステップに進んでいきたい」と話しました。

なめし工場を視察

長谷川さんは「町で捕獲されるイノシシを食用だけではなく、さまざまなことに有効活用していきたい」と話しました。



完成したイノシシ革